



令和7年7月17(木) 配信

**命を守るオーラルケア～<もしも>の備えの最前線～
第30回口腔保健シンポジウムに約1,600名が参加**



挨拶する高橋英登会長

世界口腔保健学術大会記念「第30回口腔保健シンポジウム」(主催：日本歯科医師会(以下、日歯)、協賛：サンスター株式会社)が7月12日、「命を守るオーラルケア～<もしも>の備えの最前線～」をテーマに、オンライン配信で開催され、約1,600名が参加した。

主催者挨拶で、日歯の高橋英登会長は、我が国には世界に誇る国民皆保険制度と高度な医療水準があること等が奏功して超高齢社会を迎えているとした。その上で、日歯には口腔の健康を通じて、健康寿命の延伸に貢献することで、国民が健康で長生きし、人生の最期の日まで「自分の口でおいしく食べることができるようになる」使命があると話した。

また、政府の骨太の方針2025でも「生涯を通じた歯科健診(いわゆる国民皆歯科健診)に向けた取組の推進」など明記されていることに触れ、健康で長く社会で活躍できる高齢者を増やしていくためには、口腔の疾病予防、重症化防止が大きな鍵になると述べた。

今回の「命を守るオーラルケア～<もしも>の備えの最前線～」をテーマにしたシンポジウムを通じて、日常でも非日常でも口腔の健康の重要性に対する認識がさらに深まることに期待を寄せた。

シンポジウムは、中川種昭・慶應義塾大学医学部副医学部長/歯科・口腔外科学教室教授)による基調講演に続いて、中川氏、飯利邦洋・石川県歯科医師会会長、国崎信江・危機管理教育研究所代表/危機管理アドバイザー、市川洋子・サンスター財団歯科衛生士によるトークセッションが行われた。司会はキャスターでジャーナリストの長野智子氏が務めた。

◇基調講演◇ お口の健康と全身の健康はつながっている！

中川氏は、歯周病は感染症であり、悪化すると骨を溶かす特殊な病気であることを説明した上で、歯周病が糖尿病、アルツハイマー病、細菌性心内膜炎、誤嚥性肺炎、早産や低体重児出産、動脈硬化症、大腸がんなどさまざまな疾患や、骨粗しょう症、筋力低下、認知機能の低下など、老化にも関連性があることを指摘し、歯周病が全身の症状に影響を与えることから、オーラルケアが全身の健康のためにも重要であることを強調した。

お口の菌が数時間で指数関数的に増えることに触れ、普段のセルフケアの重要性を説明するとともに、セルフケア



中川種昭氏

には限界があるため、歯科医院で定期健診を受けることが大切であると話した。また、定期的に歯科医院に通うことで歯科医師と顔の見える関係を構築し、かかりつけの歯科医院をつくることで、災害時にも安心して過ごせるようになると述べた。

◇トークセッション◇ 命を守るオーラルケア～<もしも>の備えの最前線～



飯利邦洋 氏

飯利氏は、令和6年能登半島地震に伴う災害関連死を防ぐことは、われわれ医療従事者にとって最大の使命であるとし、過去の震災で多発した災害関連死の特徴として、肺炎で亡くなられた方が多いことなどを挙げた。その上で、誤嚥性肺炎のメカニズムを説明しながら、口腔内を清潔に保つことができず、抵抗力が減弱している時ほど肺炎になりやすいと述べた。

特に災害時は、極端な水不足で口腔の清掃不備などになりやすい傾向にあることから、災害時でもオーラルケアの実践は命を守るケアにつながるとして、

平時から「災害に強い口」の必要性を強調した。

国崎氏は、日常的に使用するものを災害時に役立てる「生活防災」として日常生活に取り入れるべき対策や、オーラルケアでは日頃から食べたらみがくという習慣、みがけなければ気持ち悪いという感覚を身につける「習慣」が大切と話した。



国崎信江 氏

また、市川氏は、災害時などにも役立つ液体ハミガキや、被災時の水が少ない状況で簡単にできるセルフケアを紹介した。

司会の長野氏はシンポジウムを通じて、日頃からのセルフケアをするとともに、かかりつけの歯科医院に定期的に診てもらふことの必要性を改めて感じたと言った。

本シンポジウムの模様は、8月上旬に日歯 HP に動画を掲載する予定なので、ぜひご覧いただきたい。



トークセッションの様子

●問い合わせ先

公益社団法人日本歯科医師会 広報課

TEL : 03-3262-9322

FAX : 03-3262-9885

日本歯科医師会ホームページ <https://www.jda.or.jp/>



日本歯科医師会 PRキャラクター